

## サカキ・シキミの栽培技術向上に関する研究

(サカキ苗の人工被陰下での栽培試験)

森林経営課：藤本浩平・黒岩宣仁

### ■ 目的

サカキやシキミは、安定した需要が望める特用林産物である。サカキは国産品の代替となっていた中国産品の価格上昇もあり、市場では品質の高い国産品の需要が高い。サカキは人工林下での栽培に適しており、林業経営者にとって安定した副収入源となることが期待される。

しかし、栽培に適した光条件については不明な点が多いことから、照度の異なる条件下で、サカキ実生苗を育成し、成長を測定した。

### ■ 内容

苗の個体差をできる限り小さくするために同一個体から採種した1年生サカキ苗を用い、初期条件を揃えるために主軸を15cmで切りそろえて試験に供した。供試苗を育苗したガラス温室内に遮光率35%、60%、90%の遮光ネットを用いた網室を設定し、サカキ苗を各網室内および網室外（対照区）で育苗した（図1）。灌水はミスト自動灌水で各区とも同一条件とした。ガラス温室内の各網室内および網室外と屋外の5カ所に照度を記録するためのロガー（TR-74Ui）を設置し、1時間毎の照度（lx）を記録して8:00～16:00の値を用いて相対照度を求めた（表）。

2019年4月に網室で各区49本ずつ育苗を開始し、2019年4月、7月、2020年6月に苗高を測定した。葉は前年葉と当年展開葉を区別して長さおよび最大幅を測定した。

表 各試験区の光条件設定

	A区	B区	C区	D区
遮光ネットの遮光率表示	90%	60%	35%	—
相対照度	0.8%	3.9%	4.5%	20.5%

### ■ 成果

1年後の枯死率はA区で8%、B区で2%、C区で0%であった。A区は新梢の伸長がほとんどみられず（図1）、葉サイズは他の遮光区より明らかに小さかった（図2）。対照区であるD区と比較して、B区、C区とも苗高が高く、葉のサイズが大きかった。B区がC区より苗高が高いものの有意な差はみられず、苗高や葉の大きさはほぼ同様の傾向であった。

被陰下では葉を大きくすることで環境に適応しているものの、相対照度が1%程度では生育に悪影響がみられることが明らかとなった。

### ■ 今後の計画

実際の林内での生育状況との比較を行い、照度管理について検討する。成果は普及指導活動に利用できるように栽培マニュアルに掲載する。



図1 網室内の状況 (2021年2月 左A区、右C区)

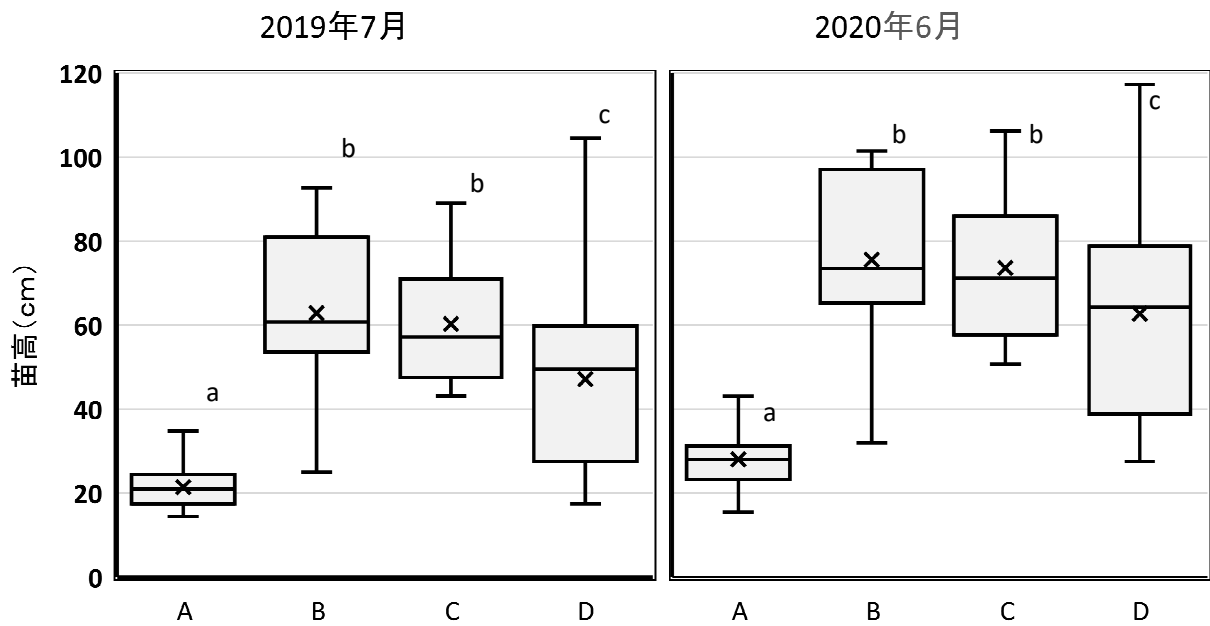


図2 試験区毎の苗高

※異なるアルファベットは同一の測定時期内で有意差がみられたことを示す (p<0.05)

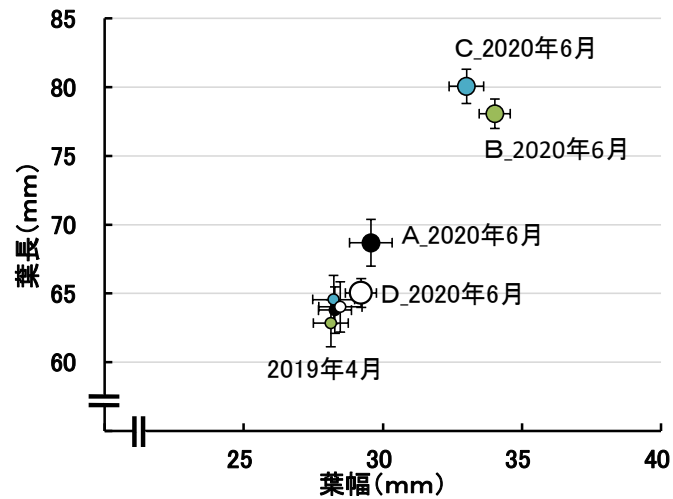


図3 試験区毎の葉の大きさ